

令和3年度 特色ある教育・経営の取組みを行う私立学校の事例集

時代に即した改革の継続

「建学の精神の具現化を目指して」

学校法人堀井学園
横浜創英中学・高等学校

「横浜創英中学・高等学校」

神奈川県横浜市の北東にある神奈川区、横浜港からほど近いJ・R大口駅から徒歩で約10分。閑静な住宅街の中に横浜創英中学・高等学校はあります。

横浜創英中学・高等学校は、1940年に財団法人堀井学園が教育機関として創設した京浜女子高等学校から、歴史が始まりました。その後、学制改革による中学校の発足や校名変更等を経て、2002年に横浜創英高等学校の名称になるとともに、男女共学化がなされました。翌年の2003年には休校していた中学校を再開し、現在の横浜創英中学・高等学校となりました。同校を設置する学校法人堀井学園は現在、大学院、大学、2つの中高一貫学校、幼稚園を擁しています。

【男女共学化、進学実績の向上】

同校は、2002年の男女共学化以来、建学の精神である『考えて行動のできる人』の育成を実現するべく、学校の持つ強み・特徴を維持しながら変革を繰り返し、時代に適応した学校づくりに努め、実現してきました。女子校時代から部活動が盛んな学校であり、男女共学化後も強豪として有名かつ歴



横浜創英中学・高等学校の全景

史ある女子バレーボール部、共学化後に創設され強豪となった男子サッカー部、各大会で上位の常連となっているダンス部、バトン部や吹奏楽部など、その伝統は受け継がれています。これら課外活動の実績を維持、発展させながら、2007年度に高等学校のカリキュラムを特進・文理・普通の3コース制に再編するなど、勉学にも力を注ぎ、進学実績を大きく伸ばしてきました。

学力を伸ばした取り組みとして特徴的なものに「0時限講座」の授業があります。「0時限講座」はその名の通り始

業前の午前7時20分から8時10分までの50分間を利用して授業を行うものです。当初は放課後に実施する希望者向けの講習でしたが、受講できない生徒からの「部活動も勉強したい」という声に教員が応え、2016年度から開講したものです。最初は教員が個々に設定していた講座でしたが、のちに学校の取り組みとして制度化され、現在は、高校2年生の3学期から希望する生徒を対象とした英語・数学・国語・理科・社会の5教科、計15講座にまで進化しました。高校3年生2学期以降の「0時限講座」は、「GMARCHプロジェクト」に名称を変え、GMARCH Hを目指す入試対策講座へと発展を遂げています。



「0時限講座」の授業風景

こうした生徒の熱意から生まれた講座は、「部活動へのフル参加と勉学の両立」を経て、生徒の学習意欲増加に直結し、大学進学実績を大きく引き上げる原動力のひとつとなりました。

【学ぶ意欲を引き出す「創学」】

「創学」とは、同校が総合的な学習の時間に実施しているプロジェクト型学習(PBL)の手法「創造的思考力育成学習」を指します。教員の提示する「正解の無い社会の課題」をテーマに、生徒たちは各々探求したものを討論し合い、最後に解決策を発表します。これを中学入学時から日常的に繰り返すことにより「考えて発信する力」や「広い視野を持ち、自分の道を選ぶ力」を生徒たちは習得していきます。

自己を知り、他人との議論と相互理解の結果を考察としてまとめ、能力を磨きあう6年間は、生徒を大きく育てるとともに、卒業後のステージで生きていくための糧となっています。

教員も、生徒の積極性に心しるため、「人格形成と国際感覚を養う語学教育」「ICT機器に頼らないアクティブラーニング」など、全ての教科をこの「創学」につながるように、「考える、発信する」の要素を授業で効果的に組み立てられるように努めています。

「0時限講座」「創学」などの、建学の精神を体現した新たな取り組みは、「大学進学実績」の向上だけでなく、同

校の持っていた旧来のイメージを20年間で大きく変えました。

部活動も勉強も両方頑張る、いわゆる文武両道について、下山田伸一郎前校長は生徒に「二兎を追って二兎を得る。横浜創英の生徒はそれでいい」と語り、勉学にいそしむと同時に好きなこと、得意なことを伸ばすよう、おおいに推奨したそうです。

【コンピテンシーとスキル】

文武両道校への進化を図り、これを実現した同校は2020年、次のステージへ進むため、工藤勇一氏を校長に招聘しました。そして、自分で考え、判断し、決定し、行動できる力を「自律」「対話」「創造」の「3つのコンピテンシー」とこれらを会得するために必要な「9つのスキル（創英9のスキル）」を掲げました。



3つのコンピテンシーと9つのスキル

これらは、「持続可能な社会」を実現する当事者になるため、生徒が身につける具体的な力として設定しており、多様性の尊重やAIが台頭する今後の社会において欠かすことのできないものといえます。

また、これらのスキルの獲得は、建学の精神にある『考えて行動のできる人』の育成」そのものであり、新たな改革というよりも、同校の人材育成方法をより明確にした取り組みとなっています。

【新型コロナウイルスとICT教育】

2020年3月に新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、同校も休校を余儀なくされました。教員と生徒の対面による学びを拡充してきた同校は危惧を感じ、早急にICT環境の整備に取り掛かりました。4月早々からICT環境の構築に全力を注ぎ、5月の連休明けには、主要科目のみならず音楽や家庭科、体育などの実技教科も重視した授業のリモート化を実現しました。これは、慣れない環境で不安を抱える生徒の気持ちを考え、画面の前で主要教科だけを釘付けになって学ぶだけでなく、実技教科を交え心身のリフレッシュを図ること、ホームルームなどを通じて、クラス全員のつながりや普段の教室の賑やかさを感じることが、重要だと考えたからです。他にも、相談受付ツールを活かした個別対応、メッセージの動画配信ツールを活かし

た反転学習やグループディスカッションの展開など、緊急事態宣言下においても学校生活全体を体感できるような様々な環境を実現しました。

現在は対面授業に戻ってはいるものの、高校生は一人一台のオンライン端末を持ち、授業で活用し続けています。生徒自らが、インターネットで調べ、まとめ、レポートを書き、プレゼンテーションの資料を作成するという一連の流れは、受験に直結する教科だけではなく、受験教科でない科目の授業の活性化という副産物をもたらしています。

今回の成功を基に、社会に出て働くうえで必要なスキルの修得を企図した授業の展開など、ICT機器の利用を一過性のものとせず、導入の遅れていたICT教育の拡充に食欲に取り組み姿勢は、同校らしい柔軟なカリキュラム改善の一例といえます。

【サイエンスコースの開設】

2022年度より、中高一貫の6年制コースとして「サイエンスコース」を開設し、学びの分野を充実させます。このコースでは、理系スペシャリストの育成ではなく、サイエンスリテラシーを大事にした教育を実施します。

提携する企業や大学の研究施設を利用した学びや、横浜の地の利を生かしたフィールドワークを活かして、実社会・地域の課題への関心を深める学びなど、生徒の興味関心を引きだすよう

なコンテンツを揃え、基本的な科学の知識を基礎に、社会問題やそれに対する取り組みを認識し、解決する力を持つ人材を育成します。



サイエンスコース

【取材を終えて】

横浜創英中学・高等学校は、盛んな部活動の実績・伝統を継承しつつ、中高一貫コースの新設等、新しい改革を引き続き進めています。

現在進行中のこの改革も、めまぐるしく変わっていく現代社会の中で、建学の精神である『考えて行動のできる人』の育成」を時代に即して実現するためのひとつの取り組みです。

次々に打ち出される方策が、生徒や進学などどのような影響をもたらした結果を生み出すのか、今後も動向を注視していきたいと感じました。

（取材）私学経営情報センター

（令和3年6月29日現在）